

(案)

**薬剤耐性(AMR)対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画 2023-2027
2023 年度進捗状況の確認について
(2024 年 6 月 21 日 薬剤耐性菌に関するワーキンググループ)**

2024 年 2 月、食品安全委員会は、食品健康影響評価の着実な実施、評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集、リスクコミュニケーションの徹底といった課題に対し、薬剤耐性菌に係る食品健康影響評価の一層の推進や向上に向け、2027 年度までに実施する行動計画を策定した。

薬剤耐性(AMR)対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画 2023-2027 では、その進捗状況を薬剤耐性菌に関するワーキンググループにおいて毎年確認することとしている。2023 年度においては、下記のとおり実施した。

項目	2023 年度の実施状況等
4-1 食品健康影響評価の着実な実施	
(1) 評価の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の抗菌性物質について評価を行い、評価結果を農林水産省に通知。 <ul style="list-style-type: none"> ① フルオロキノロン（動物用医薬品）（2023 年 5 月） ② フルオロキノロン（動物用医薬品）（2023 年 7 月） ③ ツラスロマイシン（動物用医薬品）（2023 年 8 月） ④ アミノグリコシド（動物用医薬品）（2024 年 3 月） ・ 評価終了案件は、飼料添加物及び同系統の動物用医薬品で 26 物質、11 系統のうち、家畜に使用されるものは全て終了（ただし、養殖水産動物に使用される動物用医薬品 3 系統を除く）、動物用医薬品の承認・再審査等で 38 件中 33 件終了。
(2) 食品健康影響評価のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ツラスロマイシン及びケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤（ドラクシン KP）の評価を行う際、過去のマクロライド系抗生物質の評価結果との整合性を確認しながら評価を行った。
(3) 再評価の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後再評価の必要性を検討するに際し、特に考慮することとされている、評価の一層の効率化を図るための抗菌性物質の系統での評価を実施した。具体的には 2023 年にマルボフロキサシンを有効成分とする豚の注射剤（フォーシル S）の承認申請及びマルボフロキサシンを有効成分とする牛及び豚の注射剤（マルボシル 2%、10%）の再審査に基づく第 1 項評価要請に対して系統評価（フルオロキノロン）を行い 2023 年に答申を行った。
(4) 評価指針及び重要度のランク付けについての改正	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養殖水産動物の評価の考え方、国際機関及び諸外国/地域（欧州、米国等）の基準・指針の改正動向、現行の評価指針策定以降に評価経験から得られた知見等を踏まえた評価指針改正の審議を開始した。 ・ 2024 年 2 月に WHO が人医療上重要な抗菌剤リストの第 7 版を公

	表されたことを WG で報告した。今後、重要度ランク付けの改正の要否を検討する。
(5) 評価の考え方の整理	・ 評価指針の改正の審議において評価の対象を検討し、養殖水産動物については、可能な範囲で水圏を介した影響を評価する方向で現在審議している。
4-2 評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集	
(1) 評価に必要な調査・研究事業の実施	○食品健康影響評価技術研究 ・ 養殖水産動物における薬剤耐性指標細菌の設定及びモニタリングの試行（2023-2024 年度） - 市販養殖魚及び天然魚から <i>Lactococcus garvieae</i> 、 <i>Vibrio</i> 属菌及び <i>Aeromonas</i> 属菌の菌分離等を実施した。2024 年度は、引き続きの菌分離、薬剤感受性試験、ゲノム解析等を進める予定。
(2) ワンヘルスサーベイランスへの参画等	・ 「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」においてワンヘルス動向調査の方向性に関する議論に参加し、年次報告書のとりまとめに協力（2024 年 4 月公表）。
(3) 国際動向の把握	・ 国際機関の基準・指針等の改正動向や諸外国（欧州、米国等）のリスク評価手法の検討状況について調査した。 ・ 各国の食品安全に係るリスク評価・管理機関担当者がメンバーとなっている微生物リエゾングループ（IMFSLG）に参加し、情報交換を行った。
4-3 リスクコミュニケーションの徹底	
(1) 国民に対する情報提供・普及啓発	・ 食品安全委員会 HP の薬剤耐性菌に関するページにおいて、食品安全委員会の取組について随時情報を更新。 (https://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/amr_wg/amr_info.html) ・ 11 月の薬剤耐性（AMR）対策普及啓発月間の期間中に、食品安全委員会 Facebook や X を利用し、幅広く国民への情報発信を実施。
(2) リスク管理機関との調整	・ 引き続き動向を注視し、評価手法の見直しや食品健康影響評価の必要性について、リスク管理機関の意向の聴取を検討していく予定。